

子ども英語習得マップ

絵本の読み聞かせ



子どもの成長
成長につれて認知力が高まり
理解できることが増える

トップダウンアプローチ

ことばを「まるごと」学習していくアプローチ。
単語や文法を教えるのではなく、日々の生活や
意味のある文脈の中で言語を自然に学ぶ。



音が少しずつ
蓄積される

フォネミック
アウェアネス



ボトムアップアプローチ

テキストから情報を引き出し、それを構築して体系的
に言語を学ぶ手法。代表的な指導法はフォニックス。

最初は音から

英語の音をたくさん聞き、素地を養う

音素に気づく

英語の音やそのパターンについての感覚
が身につく

～音から文字へつなげるしくみ～

言語には読む、書く、聞く、話すの4技能があります。このなかで子どもが第二言語として、「読み書き」の能力であるリタラシーを身につけるには、なにをどのように育てていけばよいのかを見てみましょう。リタラシー能力を育てるには、初期段階で音をたっぷり聞き土台を作ることが重要です。

意味のあることが
わかるようになる



目に入る英語が
読めるようになる



フォニックス



読み書き能力の
発達へ

文を読み理解する

単語レベルから、文章レベルのテキスト
が読めるようになり、内容が理解できる
ようになる

単語が読める

文字やスペルについての知識、まとま
った音のかたまりを認識できるようになる

Reading Together

いっしょに読もう！

お子さんといっしょに楽しく本を読むにはどうしたらいいのでしょうか。「読む前」「読むとき」「読んだあと」の3段階で楽しく読むコツを解説します。

外山節子 (かたがきかたがきかたがき)

● 状況が理解でき、意味のある英語を読むことが必要

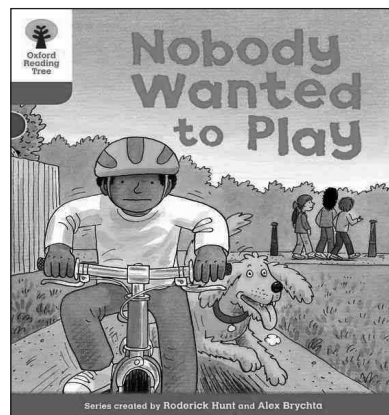
おうちの方や先生が英語の絵本を読んであげることは、子どもたちに大きな言葉の財産をプレゼントすることになります。ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思います。

私は英語絵本を教材として活用する方法を研究してきました。絵を見て状況を理解し、意味のある英語を読むことで、「木＝tree」という一語対応の学習と異なり、森の情景の中の tree という言葉を獲得します。単語ひとつだけでなく、その単語の周りにあるものすべてが、子どもの記憶に擬似体験として取り込まれます。

この記事では、124 ページで紹介している Oxford Reading Tree シリーズの *Nobody Wanted to Play* という絵本を例にして、子どもの英語獲得をサポートする読み聞かせの方法を解説したいと思います。

● 絵本を楽しむ3段階

実は私は「読み聞かせ」という言葉を使いません。「読み聞かせ」という言葉には、子どもがじっとして黙って大人の朗読を聞くイメージがありますよね。私は、Reading Together、つまりいっしょに読む、と言います。子どもがどんどん声を出してよいのです。



自転車に乗っているのが Wilf、走っている犬が Floppy、後ろを歩いている3人が Chip、Biff、Wilma。みんなおなじみの登場人物です。

絵本を楽しむ方法を次の3つのステップに分けて見てみましょう。

① 読む前の準備

子どもが知らない言語を聞いて理解するサポートです。 *Nobody Wanted to Play* の表紙をご覧ください。この子どもが Wilf という名前で、Biff、Chip、Wilma と一緒に遊ばないでどこかに行こうとしていることを理解してからタイトルを読みます。

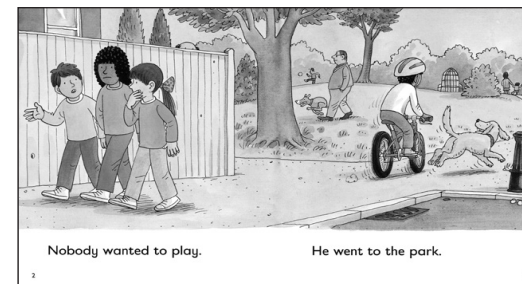
大人 「Nobody Wanted to Play. 誰もいっしょに遊んでくれない、という意味だよ」

子ども 「Floppy はいっしょにいるね。Wilf は自転車でどこに行くのかなあ」

大人 「犬を連れて遊びに行ける場所って？」

子ども 「公園？」

大人 「公園に行くのかな？ Is Wilf going to a park?」



このように子どもが言ったことを繰り返し、同じ意味の英語を聞かせることもできます。表紙について話し合うと、どんなストーリーか楽しみでワクワクしますね。3 ページで He went to the park. と本文を読むと、「当たった。やっぱり公園に行くんだ」と得意になります。

② いっしょに読む

文字通り、いっしょに読みます。「読んでごらん」ではなくて、「もう一度英語を言ってみるから、言えるところをいっしょに言ってみて」と誘うのです。 *Nobody Wanted to Play* は、1 ページに 1 文で、1 文の単語数は 4 から 6 語ですから、何度か聞いているうちに大まかな波を捉えて大人といっしょに言えるようになります。恥ずかしがりやのお子さんには「口パクでもいいよ」と言ってあげてください。子どもは口パクが大好きで、そのうち声が出るようになります。

いっしょに読むときは、まずは英語を聞かせて、大まかにわかっていたら次に進みます。英語を言いたくてうずうずしていたら、いっしょに言ってみよう！と気楽に英語を言わせます。このときは、褒めます。発音を直したりしません。

③ 読んだ後の振り返り

おうちでいっしょに読んだ後は、どのページが一番面白かったか尋ねたり、絵本をランダムに開けて、そのページを読んでみせるなど、家庭で気楽にできることがよいでしょう。*

Nobody Wanted to Play では、最後の「オチ」のページが好きという子どもが多いようです。アイスクリームを落っこす Wilf に共感するからでしょう。そして、Whoops! という言葉の音が面白いのですぐに覚えてしまいます。わざとものを落として Whoops! というのが家族で流行るかもしれません。これも、素敵な振り返りです。

何より大切なのは、②のいっしょに読むことです。「英語を教える」のではなく、「いっしょに英語を楽しむ」気持ちが、英語の好きな子どもを育てます。Happy reading! **

しあわせな英語絵本の読み聞かせ

英語の絵本を読み聞かせるとき、みなさんはどのような想いでされていますか？ 私は図書館のおはなし会で日本語の絵本を読むときと同じように、子どもたちに本の世界に入り込んでもらいたいな、と思っています。そしてこのような読み聞かせを「しあわせな英語絵本の読み聞かせ」と呼んでいます。では「しあわせな英語絵本の読み聞かせ」のやり方を説明します。

鈴木祐子（ABC4YOU 英語教室代表）

1. 絵本を選びましょう

① 子どもが英語を聞きながら本の世界をイメージできる絵本を選ぶ

たとえば、*Bark, George*（Jules Feiffer 著）や *The Doorbell Rang*（Pat Hutchins 著）のような、場面や情景を思い描ける絵本や登場人物の気持ちを推測できる絵本などがよいでしょう。



上が *Bark, George*
下が *The Doorbell Rang*

② 「ちょうどよい」絵本を選ぶ

絵1枚あたりの文量、単語量、文の長さ、ページ数が「ちょうどよい」絵本を選びましょう。この「ちょうどよい」には、「自分にとってちょうどよい」と「子どもにとってちょうどよい」のふたつの意味があります。

「自分にとってちょうどよい」絵本とは、読み手が感情を込めて読み聞かせることができる絵本を指します。自分の英語力に見合った絵本、という意味ではありません。自分の英語力に見合った絵本を子どもに読み聞かせると、たいていの場合、文章を読む声が棒読みになります。棒読みされると、聞いている子どもはその登場人物が嬉しいのか、悲しいのか、はたまた怒っているのか、それもどのくらい怒っているのか、見当がつかません。感情を伴って読んであげられる絵本を選びましょう。

「子どもにとってちょうどよい絵本」とは、子どもが集中して聞ける絵本を指します。読み聞かせている間、子どもは物語に入り込んでいるとはいえ、どうしてもモヤモヤ感が残ります。長い時間読み聞かせると、それが溜まってしまい、子どもは途端につまらなく感じてしまうのです。どのくらいの時間モヤモヤした状態で聞いているかを把握し子どもに見合った本を選びましょう。

2. 絵本の見どころを見つけましょう

絵本にはたくさん見どころがあります。できるだけ見つけましょう。とはいえ、一度の読み聞かせですべての見どころを子どもに伝えるわけではありません。子どもだっで自分で見どころを見つけたいですね！ 残りの見どころは次に読み聞かせるときの楽しみにとっておきましょう。

3. さあ、英語の絵本を読み聞かせましょう！

さあ、英語の絵本を読み聞かせましょう！

読み聞かせるとき、次の2つのポイント、「間」と「語りかけ」に気を付けましょう。

① 間

みなさんは、読書中に、先の展開が知りたくて、どんどんページをめくってしまった、という経験はありませんか？読み聞かせるときは、少し間をとってからページをめくると、先を知りたい気持ちが高まりますよ。

間をとるもうひとつの理由は、そしてこれこそ英語で読み聞かせるときにとっても大事なと思うのですが、子どもに咀嚼する時間を与えるためです。英語は母語ではないため、子どもがそのページで起きていることや、その先のことについて自分なりに咀嚼する時間が必要です。間を少しとることで、子どもは心の中で絵本と対話しているのかもしれないね。

② 語りかけ

語りかけは子どもの関心を物語に引きつけるための有効な手段です。表紙を見ながら、どんな内容に関する話なのかを予想したり、物語に出てくる登場人物やモノについて話しましょう。物語に関連する知識を少しでも得ると、子どもは俄然、本の世界に入り込みやすくなりますよ。

読んでいる最中も話しかけられます。たとえば、「あれ？ Mum の表情、さっきと違うね……」と話しかければ、mum の気持ちの変化に気づけますよね。

以上のように、「しあわせな英語絵本の読み聞かせ」はなにも難しいことをする必要がありません。

一度、お試しあれ。Happy Reading!